

「とんぼの未来・北の里づくり」令和3年度第2回事例研究会

議事要旨

日 時：令和4年3月22日（火）14：00～15：30

場 所：Web(Zoom)会議

出席者：別紙のとおり

<議事概要>

1. 開会挨拶

(水土里ネット北海道技術部 地域支援課 橋本課長)

本日は、年度末のご多忙の中にも関わらず、ご参加いただきお礼申し上げます。また、日頃から本道における多面的機能支払制度の円滑な推進に、ご尽力いただいていることも、重ねてお礼を申し上げます。

今年もコロナ禍の1年だったが、令和3年度の北海道における本交付金の実施状況としては、取組市町村、対象農用地面積ともに制度発足以来、最大となったところ。また、来年度は令和元年から5年間の対策期間としてスタートした本制度の4年目にあたり、最終年に行われる施策評価に向けた全国調査が予定されている。このような中、北海道の地域特性を踏まえた効果的な活動事例の収集および情報の発信という事例研究会の取組みはより一層重要性を増すものと考えている。

本日は、今年度の活動報告と昨年12月に開催しました「現地視察研修」における成果のとりまとめ状況の報告、令和4年度の本研究会の行動計画案について、後ほど事務局より提案する予定。

限られた時間であるが、会員の皆さまには忌憚のないご意見、活発な意見交換をいただきますようお願い申し上げまして、冒頭の挨拶にかえさせていただきます。

2. 議題

(1) 令和3年度活動報告について 【資料1】

(水土里ネット北海道技術部 地域支援課 保田主幹)

・資料6ページの令和3年度活動報告についての説明。

(一同)

特に質疑なし

(2) 現地視察研修成果のとりまとめについて 【資料2】

(水土里ネット北海道技術部 地域支援課 佐藤副主幹)

○事例研究会現地視察の概要説明

・多面的機能支払交付金を活用した外来種駆除（アライグマ）

道の要綱基本方針において広域的に取り組むことで、より大きな波及効果を生み出す活動として推進している外来種駆除について昨年度の道協議会で実施した調査により、交付金を活用して外来種駆除に取り組んでいる活動組織がある市町村が多い状況であった。このため、本交付金を活用した外来種駆除（アライグマ）にスポットをあて、道内の特色ある事例の情報収集を行い、駆除方法や行政との関わりなどの、意見交換を目的に新十津川町において視察を実施した。

・事務局体制の強化

事務局体制の強化については、道内の活動組織は改良区、農協などへ事務委託している組織が多い一方で、事務支援体制が整備されていない地域も数多くある状況であった。このため、道内の特色のある事例の情報収集を行って、恒久的な事務局体制の構築方法について情報収集を行う目的で、民間企業に事務委託している清水町、新たに団体を設立して事務委託をしている更別村の事例収集を行った。

なお、この視察成果のとりまとめを洞爺湖町の村上主幹、岩見沢市の伊丸岡係長にお願いしており、この成果について説明をいただく。

① 多面的機能交付金を活用した外来種駆除（アライグマ）

(洞爺湖町農業振興課農業振興グループ 村上主幹)

・資料の7ページから34ページの多面的機能支払交付金を活用した外来種駆除（アライグマ）の取り組みの成果について説明。

(岡村会計)

・オホーツク管内は、アライグマの被害が少ないと思っており、遠軽町もほぼ被害はでていないと記憶している。前回の会議の際に、話を聞いたところ少しずつアライグマの被害が出てきている状況なので、新十津川町の先進的な活動が行われている事例が分かれば心強い。

(松井係長)

・オホーツク管内のアライグマ被害の状況は、確かに少ない状況。令和2年度の資料で、雄武町で20頭程度、湧別町で7頭、遠軽町1頭捕獲されている。今後、アライグマによる被害も広がっていくと予想される。今回の資料の主点は、市町村向けになっているが今後は、組織向けの資料作成も必要と考える。

(鳥本会計)

・芽室町で、箱ワナの設置に防除従事者講習の受講が必要と言うことで、講習を受けた。芽室町役場から講習を受けることにより、箱ワナ設置の資格を取得できると説明を受けた。保

全組合で資格を取得したい方に講習を受講してもらった。一番問題になる、と殺に関してはハンターに委託する方向性で芽室町は取組んでいる。

芽室町役場より箱ワナの設置に防除従事者講習の受講が必要と働きかけてくれたことを大変ありがたいと感じている。

(松井係長)

・十勝管内のアライグマ被害は増加しており、芽室町で昨年 172 頭捕獲されている状況であり、町からも相談を受けているところ。狩猟の講習なども本交付金を充当することができ、殺処分をハンターに委託している組織もある。周辺市町村でも増加しているので、全道的に広めていく活動として推奨し今後も協力を願いたい。

(鈴木課長補佐)

・旭川市、旭川土地改良区地域において、一部地域で外来種の駆除（アライグマ）の活動を行っている。毎年、数頭捕獲をしているが被害の報告はそれ程出していない状況。今後、増加してからの対策は大変なので、今回の成果が完成された時点で、旭川市と協議しアライグマの被害が増加する前に対策を講じていきたい。

(松井係長)

・行政と連携しながら多面の交付金を使用して外来種駆除を行うことが効果的だと考えている。

(松井係長)

・新十津川町の事例は、道総研と連携したアライグマ対策で、鳥獣害交付金と多面的交付金を活用した対策が行われており、近隣市町村との連携も重要と考える。また、アライグマの駆除については、北海道でも振興局環境生活課で主催している捕獲技術等研修会に道協議会が講師として参加するなど今後とも取組み拡大に向けた普及啓発の推進を進めていく。

② 活動組織における事務局体制の強化

(岩見沢市農政部農業基盤整備課基盤整備係 伊丸岡係長)

・資料 35 ページ～52 ページの清水町・更別村～事務負担の軽減と体制強化に向けての成果について説明。

(鈴木課長補佐)

・資料 51 ページの【意見交換を終えた感想】の質問、支援会や地域からの要望の順位付けについて、岩見沢市も苦慮していると説明があったが、最終的に話し合いなどで決めているのか、別の方法で決めているのか教えていただきたい。

(伊丸岡係長)

・岩見沢市広域協定においても、更別村同様に地域から水路、農道の補修などの要望があがっている。地域の方々と直接対話するが合意形成に苦慮しており、予算を調整し緊急度の高い箇所を抽出しながら実施しているのが現状である。本来なら、予算立てをしながら順位付けを地域の方と協議し行うのが理想だが緊急的な事案にあつては、岩見沢市広域協定事務

局と岩見沢市で協議し進めているのが現状である。

(鈴木課長補佐)

・予算と緊急度で、取組みを行っていると同だったが、その後、活動組織の方々は納得しているのか。

(伊丸岡係長)

・納得していると認識しているが、予算の範囲内で実施しているため、翌年に先送りしている場合もある。一部地域からは、早々に実施して欲しいとの声もあがっていることが実態としてある。

(松井係長)

・構成員の主体性が弱くなることは事務局を委託している一つの弊害と思われる。本来は地域の方々が、話し合いを実施して取決めるのが理想。更別村の組織においては、事業制度の趣旨が薄まる中で、若手を役員に登用し事業制度の内容を理解してもらうよう努めていると同っている。

(岡村会計)

・道内の活動組織も広域化が進んできていると感じているが、今回の研修を終えて、広域化に色々な形があると思う。色々なやり方の広域化を広く示せば、道内の活動組織がどういった広域化を目指したいのか理解できると思う。より広域化の種類を分かり易くしたらいいのではないかと思う。

(松井係長)

・広域化の事例については、重要と考えているところ。令和4年度の本研究会活動計画(案)の中で広域化の事例について実施していきたいと考えている。

清水町の事例は、事務局体制の構築と合わせ広域化が行われた事例である。広域化後に集落間の情報共有が進み今年度の取組み面積が780ha増加し、施設の保全管理が重点的に可能となるなどの効果が見られた。今後は活動を終了した地域の再開や全町的な活動による活性化が課題。

次に、広域化が全道的に進んでいる状況であり、令和4年度は、上川管内の名寄市、鷹栖町、比布町、空知管内の由仁町で、市町単位で広域化を実施し全道で50組織となる見込み。統合や広域化による体制整備は今後も進むと思われ、今後の事例収集も必要となると思われる。

また、広域化を行わず事務局体制が機能している事例もあるので、地域の実情に合った色々な事例を収集し発信していきたいと考えている

(松井係長)

・原案のとおり、事例研究会の成果として考えているが、成果について異議は無いのか。

(一同)

異議なし

(3) 令和4年度事例研究会行動計画(案)について 【資料3】

(北海道農政部農村振興局農村設計課 鈴木主査)

・資料3の52ページの令和4年度事例研究会行動計画(案)の説明。

(一同)

特に質疑なし

(松井係長)

・令和4年度事例研究行動計画(案)を原案のとおり実施していく。地目別の活動事例、女性参画、広域化事例などの令和4年度も多くの検討項目を予定している。

3. 意見交換および質疑

(一同)

意見及び質疑、特になし

(松井係長)

・令和4年度事例研究会員についてであるが、事例研究会は、積極的な情報発信を行い、本道の交付金活動の充実と発展に大きく寄与してきた。会員の委嘱は今年度末までとなっているが、事例収集の発信のため、次年度も継続して活動していくこととしている。

本研究会は平成29年12月に設置され、今年度で5年目と長期間の活動となり、今後の更なる活動の充実に向けて、設立当初の平成29年から携わっていただいた皆様には今年度末で会員をご辞退いただければと考えている。長い間の活動に感謝申し上げます。引き続き、続けていただきたいとの思いはあるが、多くの市町村、組織の皆様のご意見を拝聴していきたいと考えているところであり、ご理解願いたい。

一方、令和元年度から本研究会に携わっている方々は、次年度以降もお願いしたいと考えている。

新会員については、4月以降に推薦依頼となる。各地帯別に幅広く推薦をいただいて、色々な角度から活発な意見を今後とも収集していきたい。

(友貞主事)

・今年度から事例研究会会員にならせていただいて、会議の場や視察研修などを通じて勉強させていただいた。本研究会の設立当初から参加している会員の入れ替えがあるのはやむを得ないが、今後、本研究会を進めていく中で、設立当初の会員の話を聴ける場を設けていただければ、新会員など学べる人が多いので検討していただきたい。

(松井係長)

・平成29年度からの会員は、今回、会員としての活動は終了するが本交付金の活動としては続けていくので市町村同士で連絡を取り合う機会もあると思う。この場を退会しても情報共有や多面としての活動は、今後とも携わっていただきたい。

(佐藤副主幹)

・平成29年度から事例研究会に参画していただいた方、大変お世話になり、ありがとうございます

ざいます。先ほど友貞主事から、諸先輩方の意見も聞きたいと発言がありました。配布資料の3ページに設置要領に、事例研究会、平成29年12月に制定され、令和元年11月に改正しています。

2. 構成の(4)にその他、必要に応じて指導助言・意見聴取のため、第三者を招集することを可能とする。地目別に事例収集を行ったとき、鳥本会計の意見を聞きたい、岡村会計の意見を聞きたい、村上主幹の意見を聞きたいなど、ここで参加できると読み取れるので、今は一度、退会となりますが、引き続き、多面的交付金の活動のみならず、事例研究会もご指導いただければと思う。

(岡村会計)

・平成29年度から事例研究会の会員をしていたが、今回、退会となり少し寂しく感じている。新たに会員を入れ各地域の活動の情報を積み上げていくことに心より賛同している。4年4ヶ月間とても楽しい活動を体験でき、事例研究会に参加できたことを感謝している。ありがとうございます。

(鳥本会計)

・平成29年度から、長いと感じたことはない。人の入れ替わりが無い中で活動していた私たちが一度退いて、新しい会員を入れて活動していくことは非常に良いことだと思う。当初から参画された会員は、コロナ過の中で個人的な交流が難しい状況である。以前は一ヶ所に集まって色々な話しやコミュニケーションをとって議論をぶついたりしていた。新会員の人たちにも引き続き行ってほしい。芽室町役場の職員が、興味をもって参加していますので是非、誘っていただければと思います。ありがとうございます。

(村上主幹)

・平成29年度当初から参加させていただきまして、仕事を行う上で、人とのつながりが重要で、事例研究会では初期会員の峯氏に講師をお願いして、洞爺湖町から12、3名ほど札幌に行き、講師していただいた。翌年には鳥本会計に講師をしていただき、事例研究会の枠を飛び超えて輪ができた。自身も道外に視察し色々な事例を知ることが出来た。2000人規模のロイトン札幌、ニトリ文化ホールで事例発表させていただき、いい機会に恵まれ、洞爺湖町役場職員では、全くできない経験をさせていただいた。私のような体験を非常に多くの人に知っていただきたいと思っている。これからも事例研究会を継続していただいて活性化してほしい。洞爺湖町は先進的な取組みは実施していないが、会員が視察に来ていただけるような取組みをしていきたい。今後ともよろしくお願いします。

(佐藤副主幹)

・同じく平成29年度から本研究会に参画されている鷲見代表からもメッセージが届いているので、代読させていただく。

・お疲れ様です。22日の事例研究会ですが欠席で申し訳ありません。今回で最後になるということで、改めて多くの方にお世話になったことに、お礼申し上げます。本会議で意見しても真剣に聞いていただき、ありがとうございます。道内の中にはこんなにも、多面を良く

しようとしている方、運営に尽力してくれている方がいて、お世話になっていることを、地元にもこれからも伝えていきたいと思えます。誠に勝手にはお願いですが、任期満了で決定したならば、大変お世話になったことを事例研究会の皆様にお伝えください。

以上が、鷺見代表からのメッセージとなります。

4. 閉会挨拶

(北海道農政部農村振興局農村設計課 岩田活性化担当課長)

・本日は年度末のお忙しい中、本事例研究会にご出席いただきありがとうございました。

今回の事例研究会におきましては、令和3年度の活動報告、現地視察研修の成果の取りまとめ、令和4年度活動計画(案)に、意見交換などをしていただき感謝申し上げます。

洞爺湖町の村上主幹、岩見沢市の伊丸岡係長には、現地研修の成果の取りまとめ、および、本日もご報告いただきまして本当に感謝申し上げます。また、令和4年度のテーマとなりました地目別の活動事例、女性参画、広域化事例などにつきましては、今後の共同活動や体制づくりに有益と考えている。来年度の成果の取りまとめに期待をしている。

さて、本事例研究会、本道の交付金活動の充実・発展に大きく寄与していきたくところですが、新たに会員に加入していただくということで、今回でご勇退される皆様には、これまでの本研究会の活動に感謝を申し上げます。北海道といたしましても、本制度の効果的な活用に事例研究会からの情報発信は重要であると考えている。皆様方には引き続き、北海道の農業農村の振興にご協力いただけますようお願い申し上げます。閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。